

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年9月15日(2005.9.15)

【公開番号】特開2000-80170(P2000-80170A)

【公開日】平成12年3月21日(2000.3.21)

【出願番号】特願平10-248558

【国際特許分類第7版】

C 08 J 3/12

// C 08 L 101:00

【F I】

C 08 J 3/12 Z

C 08 L 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月30日(2005.3.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリマーの水性分散液又は水溶液からポリマー微粒子を製造するにあたり、ポリマー水性分散液又は水溶液の液滴をパルス衝撃波に接触させ、固液分離を行うことを特徴とするポリマー微粒子の製造方法。

【請求項2】

パルス衝撃波が、パルス燃焼器により発生したパルス燃焼ガスによるものであることを特徴とする請求項1に記載のポリマー微粒子の製造方法。

【請求項3】

ポリマーの水性分散液又は水溶液の供給が噴霧ノズルを使用するものであることを特徴とする請求項1又は2に記載のポリマー微粒子の製造方法。

【請求項4】

パルス燃焼器のポリマー供給部に導入される2次空気の温度 t_1 が下記の式(1)を満足する条件で操作されることを特徴とする請求項1~3のいずれか一項に記載のポリマー微粒子の製造方法。

【数1】

$$t_1 \text{ (}^{\circ}\text{C} \text{)} \leq MFT - 15 \quad (1)$$

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、鋭意検討した結果ポリマーの水性分散液又は水溶液を、パルス衝撃波に接触させ固液分離を行うことによって上記難点の解決が可能であることを見出し本発明を完成した。

即ち、本発明はポリマーの水性分散液又は水溶液からポリマー微粒子を製造するにあたり、ポリマー水性分散液又は水溶液の液滴をパルス衝撃波に接触させ、固液分離を行うことを特徴とするポリマー微粒子の製造方法である。更に好ましくは、パルス燃焼器により発生したパルス燃焼ガスによる衝撃波を用い、該パルス燃焼器を備えた乾燥機の乾燥室に導入される2次空気の温度 t_1 が下記の式(1)を満足する条件で操作されることを特徴とするポリマー微粒子の製造方法である。